

平成27・28年度 文部科学省・埼玉県教育委員会委託
平成27・28年度 長瀬町教育委員会研究委嘱

研究紀要



「まごころをつくしあい、みんな仲よく、
たゆまず学び続ける児童の育成」

～自他の大切さを実感できる授業と教育環境の整備充実を通して～



平成28年11月22日（火）

長瀬町立長瀬第一小学校

あいさつ

長瀬町教育委員会教育長
野口清

長瀬町立長瀬第一小学校においては、平成27・28年度文部科学省人権教育研究推進事業の研究指定校として、全校をあげて研究に取り組み、その成果を発表されますことに敬意を表しますとともに、心からお喜び申し上げます。

長瀬第一小学校では、「まごころをつくしあい、みんな仲よく、たゆまず学び続ける児童の育成」を研究主題に掲げ、自他の大切さを実感できる授業の実践と教育環境の整備充実を中心とした研究に取り組みました。2年間の研究を通して、人権についての知的理解だけでなく、自他を大切にすることの児童の人権意識が高まり、実践的行動につながったとっております。また、どの教室においても、互いのよさを認め合い、一人一人の児童を大切にしたい授業が実践されています。2年間にわたる本研究の成果が十分に生かされ、広く県内外の教育実践に寄与されますことを心からご期待申し上げます。

結びに、本研究に熱心に取り組んでられました浅見哲夫校長先生をはじめとした教職員の皆様、本研究をご指導くださいました関係者の皆様に心より感謝を申し上げ、あいさついたします。

あいさつ

長瀬町立長瀬第一小学校長
浅見哲夫

本校は、平成27・28年度文部科学省・埼玉県教育委員会の「人権教育研究指定校」として、長瀬町教育委員会の委嘱を受け「まごころをつくしあい、みんな仲よく、たゆまず学び続ける児童の育成」～自他の大切さを実感できる授業と教育環境の整備充実を通して～を研究主題に設定し、取り組んでまいりました。

研究を進めるにあたっては、「伝え合う授業」「認め合う環境」「高め合う活動」の視点から、「自分の人権を守り、他の人の人権を守ろうとする意識・意欲・態度に基づく実践的な行動力の育成」に努めてまいりました。

こうした視点に立った様々な取組を研究紀要としてまとめるとともに、研究発表会を開催させていただく機会を得ましたが、まだまだ多くの課題が山積しております。皆様のご指導、ご叱正を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本校の研究推進にあたり、ご指導いただきました埼玉県教育局市町村支援部人権教育課をはじめ北部教育事務所、長瀬町教育委員会の先生方に心より感謝申し上げます、あいさつとさせていただきます。

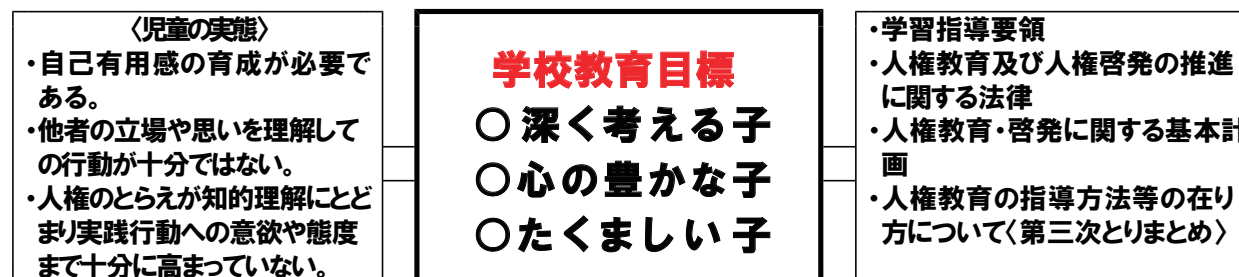
研究主題設定の理由

本校には、「至誠」「協和」「修行」という三つの校訓がある。「至誠」とは極めて誠実にまごころをつくしあうことであり、まごころとは、うそ偽りなく相手のことを親身になって思いやる心である。「協和」とは心を合わせて仲よくすることである。「修行」とは他者と協調しつつ自主的に社会生活を送るために学び続けることである。こうした三つの校訓は、本校の教育活動の全ての指標となっている。

本校の児童は、純朴で素直な児童が多い。小規模校の特長を生かした縦割り活動の充実を目指す取組、「いじめ防止キャンペーン」での道徳・学活授業公開、人権週間の取組等を通じて、全体的には、友だちを思いやり、落ち着いた学校生活を送っている。一方、相手の立場や気持ちを理解できず些細なことからもめ事を起こしてしまう自己主張の強い児童、自分の感情を抑えられず相手を傷つけてしまう児童もいる。その要因として、本校児童の人権のとらえが知的理解にとどまり実践行動への意欲や態度まで高まっていないことが考えられる。

その解決を図るためには、①自他の大切さを実感できる授業の在り方について研究を深めること、②人権感覚を高める教育環境の整備充実を図ること、③実践行動へとつなげる活動や地域の関係機関との連携を充実させることなどが必要である。研究を通じ、自分の人権を守り他の人の人権を守るための意識・態度・実践的な行動力などの資質や能力の育成に向け、総合的に取り組んでいく。このことが、本校の目指す児童像である「まごころをつくしあい、みんな仲よく、たゆまず学び続ける児童」の育成につながるものと考え、本主題を設定した。

長瀬第一小学校 人権教育グランドデザイン



**研究主題「まごころをつくしあい、みんな仲よく、
たゆまず学び続ける児童の育成」**
～自他の大切さを実感できる授業と教育環境の整備充実を通して～

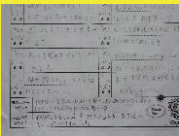
人権教育を通じて育てたい資質・能力
自分の人権を守り他の人の人権を守ろうとする意識・意欲・態度に基づく実践的な行動力の育成

目指す児童像 ～こんな児童になってほしい～		
まごころをつくしあう子 ・自他の人権を大切にし、 伝え合う児童	みんなと仲よくできる子 ・自他の人権を大切にし、 認め合う児童	たゆまず学び続ける子 ・自他の人権を大切にし、 高め合う児童
〈低学年〉 ・相手を思い、やさしい言葉をつかえる児童 〈中学年〉 ・相手を思いやる心づかいのできる児童 〈高学年〉 ・相手の思いを受け止め折り合いのつけられる児童	〈低学年〉 ・自分や友だちのよさを見つけられる児童 〈中学年〉 ・自分や友だちのよさやちがいを伝え合える児童 〈高学年〉 ・自分や友だちの個性を理解し合える児童	〈低学年〉 ・友だちと仲よく活動できる児童 〈中学年〉 ・友だちと協力して活動できる児童 〈高学年〉 ・お互いのよさを発揮して活動できる児童

【仮説1】 伝え合う授業	【仮説2】 認め合う環境	【仮説3】 高め合う活動
自他の大切さを実感できる授業を実践できれば、人権感覚を身につけた児童の育成につながるであろう。	自他を大切にしたい教育環境の整備充実を図ることができれば、人権感覚を身につけた児童の育成につながるであろう。	実践行動へとつなげる活動や地域・関係機関との連携を充実させれば、人権感覚を身につけた児童の育成につながるであろう。

授業研究部会	調査環境部会	地域連携部会
・人権教育の視点を明確にした各教科年間指導計画の作成 ・お互いの考えを尊重し、認め合える授業づくり ・アクティブラーニングの充実 ・人権感覚育成プログラムの活用 ・ユニバーサルデザインを生かした授業づくり	・各種アンケートの実施と分析 ・教師の人権意識チェックシート ・人権コーナーの整備（「ありがとうの木」掲示、ほか図書設置等） ・各教室人権コーナーの整備 ・思いやりの花いっぱい運動 ・教師の人権宣言（人的環境づくり） ・ありがとう日記	・学校行事への人権教育の位置付け ・長瀬町小中学校の連携 ・学校応援団と協働した縦割り班での学校ファーム ・学校応援団や社会福祉協議会との連携による各種ふれあい体験 ・「人権だより」の発行 ・HPでの情報発信

平成28年度 長瀬第一小学校 人権教育年間推進計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
主な 学校行事		荒川クリーン作戦 (社会と自分、人間関係づくり)			運動会(人間関係づくり)			一小秋祭り(人間関係づくり) いじめ防止キャンペーン (子供)	人権週間 人権講話(法の下の平等)	給食感謝のつどい (社会と自分)	長縄8の字とび大会 (人間関係づくり)	6年生を送る会(人間関係づくり) 学校応援団への感謝 (社会と自分) 3.11集会(災害時の人権)
児童会 縦割り班活動												
常時活動	 挨拶声かけ運動・挨拶週間	 児童会人権推進の呼びかけ(子供)	 人権だよりの発行(子供)	 ありがとう日記(人間関係づくり)	 人権コーナー・ 人権ロードの整備(人間関係づくり)	 縦割りタイム(人間関係づくり)	 思いやりの花いっぱい運動(人間関係づくり)	 登下校見守り活動(社会と自分)				
	 学び合い活動・アクティブラーニングの充実(人間関係づくり)	 ユニバーサルデザインの視点を生かした授業(法の下の平等)	 人権感覚育成プログラムを活用した授業 の実践(人間関係づくり)	 特別支援学級との交流・ 支援籍学習(障害者)	 ALTとの交流(外国人)	 学校応援団による学習支援(個人の尊重、人間関係づくり、社会と自分)						
社会奉仕 自然体験 栽培活動	緑の少年団結団式 (生命尊重) 緑の募金(生命尊重)	サツマイモ苗植え(生命尊重)	国道沿いの花植え(生命尊重)	JRCバッジ贈呈式 (社会と自分) 人権の花植え(生命尊重)	環境整備奉仕作業 (社会と自分)	JRC赤い羽根の募金 (社会と自分)	サツマイモ収穫・収穫祭 (生命尊重)		書き間違えハガキの回収 (障害者) 球根の植え付け(生命尊重)			
人権教育部		人権作文長瀬町福祉大会 いじめ悩み事アンケート (子供)	いじめ悩み事アンケート (子供)	いじめ悩み事アンケート (子供)	人権標語募集(子供)	いじめ悩み事アンケート (子供)	いじめ悩み事アンケート (子供)	人権講話 人権作文朗読 人権標語掲示 子供の人権講演会(子供) 「めぐみ」視聴(拉致被害者) 高齢者疑似体験活動 (高齢者)	スマホ・ケータイ安全教室 (インターネットによる人権侵害)	命の大切さを学ぶ教室 (あおいとり) (犯罪被害者の人権) いじめ悩み事アンケート (子供)		
授業研究部	年間指導計画確認 ユニバーサルデザインの視点 を生かした授業の確認 (法の下の平等) アクティブラーニングの充実 (人間関係づくり)		授業研究会①	授業研究会②	年間指導計画の見直し	授業研究会③	人権教育研究発表会 (11月22日)	いじめ防止キャンペーン (子供)		年間指導計画見直し		
調査環境部	児童人権感覚調査 (法の下の平等) ユニバーサルデザインの視点 を生かした教室整備 (法の下の平等)	職員人権宣言(法の下の平等)	人権図書(子供)	児童人権感覚調査 (法の下の平等)		人権図書(高齢者)	ユニバーサルデザインの 体系化(法の下の平等)			児童会活動のふりかえり (子供)	児童人権感覚調査 (法の下の平等)	
地域連携部		人権読み聞かせ(子供)	野上駅前花植え(生命尊重)	学校ファーム整備(生命尊重)	環境整備奉仕作業(社会と自分) 学校応援団推進会議 サマースクール (人間関係づくり)	世代間交流除草 作業(高齢者)	人権読み聞かせ(高齢者)	植木の剪定作業(高齢者)	野上駅前花植え(生命尊重)	人権読み聞かせ(障害者) 昔の遊びを楽しむ会(高齢者)	認知症サポーター講習会 (高齢者) 昔の話を聞く会(高齢者)	卒業生への読み聞かせ 「幸福の王子」 (法の下の平等)

授業研究部の取組

1 部会の研修

授業研究部では、自他の大切さを実感できる授業を実現するために研修を重ね、年間指導計画の見直しやアクティブラーニング、ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりの実践に取り組んだ。



① 教科ごとの人権教育上のねらいの位置づけ



1年 道徳 「生命尊重」

生きているすべての生命を大切にしようとする態度を育成する。



2年 算数 「コミュニケーション能力」

意見や考えを適切に伝え合い、わかり合おうとする心を育てる。



3年 学級活動 「コミュニケーション能力」

あいさつについて理解を深め、実践することにより、人間関係の基礎的なことを身に付けさせる。



4年 体育(保健領域) 「多様性の尊重、共存」

男女が互いに尊重し合うことの大切さについて理解させる。



5年 家庭科 「コミュニケーション能力」

話し合い活動を通して、意見を適切かつ豊かに伝え合い、わかり合おうとする心を育てる。



6年 体育 「コミュニケーション能力」

友達のよさや違いを認め合い、助け合う中で、人間関係の基礎的なことを身に付けさせる。



6年 学級活動 「コミュニケーション能力」

意見や気持ちを適切かつ豊かに伝え合い、わかり合える態度を育成する。



さくら学級 生活単元学習 「自己尊重の感情」

めあてに向かって挑戦し、自分で最後までやり遂げたり周囲の人々に認められたりすることで、達成感や成就感を味わわせる。

③ アクティブラーニングの充実



体験活動や教え合いの場面を意図的に取り入れ、児童同士の学び合いの機会をつくる。

④ 人権教育の視点を明確にした各教科の年間指導計画の作成

3学年 人権教育年間指導計画				
長寿町立長寿第一小学校				
月	教科	主題・題材等・活動	目 標	人権教育上のねらい
4	学級活動	3年生になって	楽しい休み明け	一人ひとりの個性や考えを尊重し、自分自身も尊重されることを体験し、多様な人々と共に生活する喜びや責任を学ぶ。
5	道徳	異文化・異人種について	1. 異文化・異人種について学ぶ。2. 異文化・異人種について学ぶ。3. 異文化・異人種について学ぶ。	異文化・異人種について学ぶ。異文化・異人種について学ぶ。異文化・異人種について学ぶ。
6	道徳	おもしろいこと	2. おもしろいことについて学ぶ。3. おもしろいことについて学ぶ。	おもしろいことについて学ぶ。おもしろいことについて学ぶ。おもしろいことについて学ぶ。
7	道徳	おもしろいこと	3. おもしろいことについて学ぶ。4. おもしろいことについて学ぶ。	おもしろいことについて学ぶ。おもしろいことについて学ぶ。おもしろいことについて学ぶ。

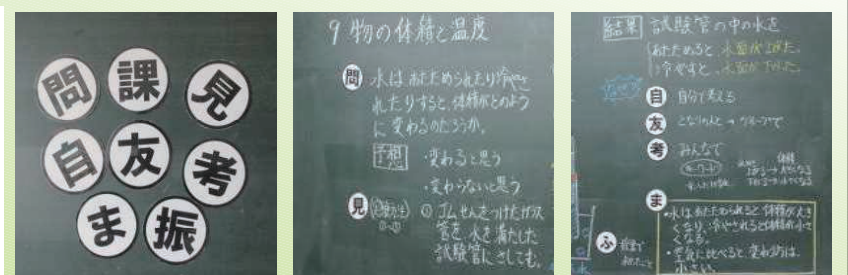


人権感覚育成プログラムを人権教育年間指導計画の中へ盛り込み、授業で実践していく。

⑤ ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり

授 業 ス タ イ ル (1時間の流れ)				
段 階	活動内容	掲示物		
第 1 段階	学習課題の提示	問題・課題	1～3年	4～6年
第 2 段階	解決の見通し	見通し	① ② ③	④ ⑤ ⑥
第 3 段階	自力解決	自分で考える	⑦ ⑧ ⑨	⑩ ⑪ ⑫
第 4 段階	協働解決	友達と考える	⑬ ⑭ ⑮	⑯ ⑰ ⑱
第 5 段階	振り返り	振り返り	⑲ ⑳ ㉑	㉒ ㉓ ㉔

学習の活動段階を5つに分けた授業展開



学習の見通しが持てるよう、活動段階を明確にする掲示物の活用と板書

2 主な取組

② お互いの考えを尊重し、認め合える授業づくり

長一小モデル（話し合い活動のスタンダード）

- 1 はじめの言葉・課題の確認
- 2 意見を出し合う（発表）
- 3 考えを深め合う（よかった意見や考え、質問など）
- 4 意見をまとめる（グループとしての意見のまとめ）
- 5 おわりの言葉



グループ活動時に長一小モデルを活用し、スムーズな話し合いを行う。学年、教科、単元によって教師がアレンジを加える。

研究の成果

- ・アクティブラーニングを推進することにより、学習のめあてを意識して学習することができるとともに、それぞれの授業において設定した人権教育上のねらいにもせまることができた。
- ・授業スタイル（授業の流れ）や長一小モデル（話し合い活動のスタンダード）を活用することで、授業がスムーズに進み、児童同士の学び合いの機会も増えた。
- ・授業の中で、拍手や褒める言葉がけを友達同士で行うことにより、お互いの意見を認め合うことができ、自他を大切にする態度が高まった。

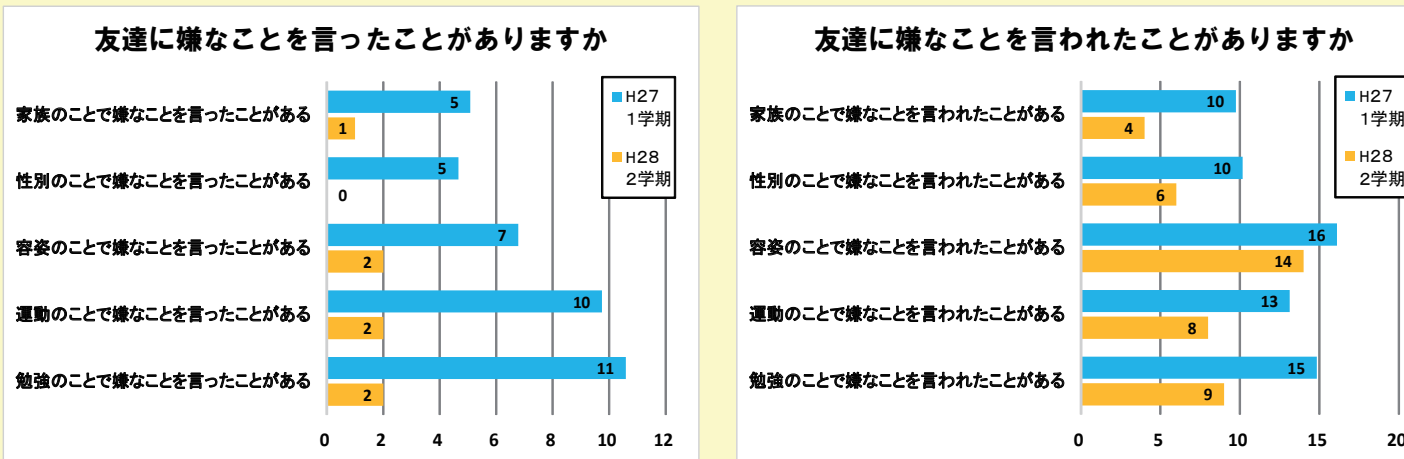
課 題

- ・児童の人権意識がさらに高められるよう、人権教育年間指導計画の見直しや授業作りを工夫していく必要がある。

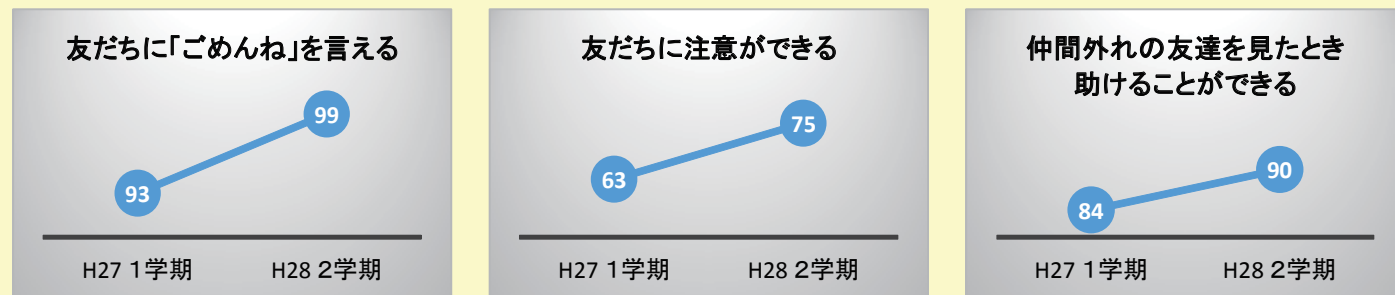
調査環境部の取組

1 児童アンケート

【学校生活での変容(児童同士の関わり)】



【実践行動の変容】



アンケートの考察

- 自分のよいところに気付く児童が増え、自己肯定感の向上が見られる。また、友達のよさにも気付くことができ、自他の人権を大切にできる児童が増えている。
- 児童同士の関わりでは、自分や友達のことをよく知ることから、言葉遣いにも気をつけて生活ができるようになり、「学校が楽しい」と感じている児童が増えている。
- 毎日の学校生活の中で、人権に対する知的理解に留まらず、実践行動の向上的変容が見られている。

2 ユニバーサルデザインの取組

- 1 教室環境
- 2 学習や生活のきまり
- 3 人間関係づくり
- 4 授業の構成
- 5 教師の話し方、発問や指示
- 6 板書、ノートやファイル
- 7 教材・教具
- 8 個別的配慮

8つの視点を中心に考え取り組んだ。特に児童が毎日学習する教室環境づくりを意識し、視覚的な刺激を減らすなどの学習環境を整え、学力の向上を目指した。



教師用ロッカーへのカーテン



黒板横掲示へのロールカーテン



教室側面に設置した時計



後方からも見やすい大型タイマー

3 人権コーナー



教室の後ろに「人権コーナー」を常設し、人権教育だより、ありがとうの木を掲示した。ありがとうの木は、毎日、学級で取り組んだ、友達への感謝の気持ちを書き綴る「ありがとう日記」から、各月1点を選んで掲示した。毎月の木を変え、児童が書きやすいような構成を考え取り組んだ。

4 人権の広場

2階に設置した人権の広場から東側を「人権ロード」とし、人権に関する掲示を行った。地域や児童同士の関わりの写真や学校の取組、年間推進活動、「ありがとうの木」などを掲示、人権図書を集めた「ぼかぼか図書」のコーナーも設置した。児童が常に目に触れ、意識できるように考えた。



5 思いやりの花いっぱい運動



各クラス3人一组でプランターに3株の花を植え、世話をを行った。家庭と連携し、思いやりの気持ちを広めるために、「お家でできること」、「学校でできること」を考え、プランターに全員のめあてを書き込んだ。友達と協力しながら花を育てることで、自他を大切にする心の醸成を目指した。

研究の成果

- ユニバーサルデザインの実践により児童の学力、学習技能などが身に付き、より楽しい学校生活が送れるようになってきている。
- 毎日の人権学習への取組により、自己有用感が高まり、友達との関わり方も柔軟になり学習環境が充実してきている。

課題

- ユニバーサルデザインを意識して常に取り組んでいるが、より一人一人にあった教育環境を考え、全員の児童がより充実した学校生活を送れるようにしたい。
- 常に変化のある掲示を考え、これからも児童が興味を持って取り組めるように考えていきたい。

地域連携部の取組

《社会福祉協議会との連携》



世代間交流除草作業



昔の遊びを楽しむ会



車椅子バスケット講演会



高齢者疑似体験活動

《学校応援団との連携》



人権課題に関する読み聞かせ



個に応じた学習支援



地域と児童をつなぐ支援



登下校時の見守り支援

《長瀬町青少年健全育成町民会議との連携》

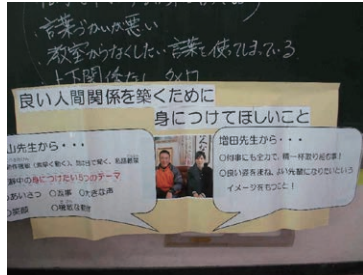


あいさつ声かけ運動



サマースクール支援

《中学校との連携》



ゲストティーチャー

《関係機関との連携》



スマホ・ケータイ安全教室

《PTAとの連携》



環境整備奉仕作業



運動会準備

《地域の方々との連携》



地域の花植え



伝統芸能の継承

研究の成果

- ・地域との連携活動に、人権教育の視点を位置付けることができた。
- ・地域の方と協働した縦割り班活動では、友達や地域の方々と協力して活動することができ、お互いのよさを高め合う活動ができた。
- ・児童アンケートの集計結果から、「困ったときに相談相手がいる」と答える児童が増えている。
- ・「ホームページ」や「人権教育たより」を充実し、家庭や地域へより細やかな情報発信を行った。

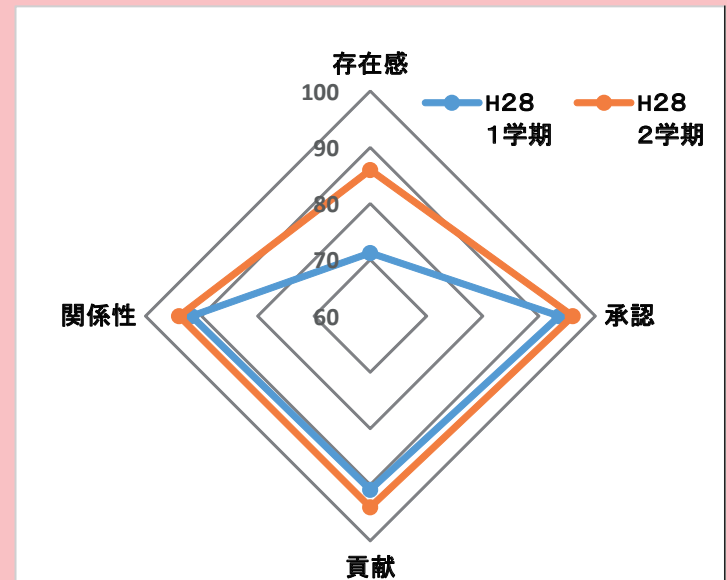
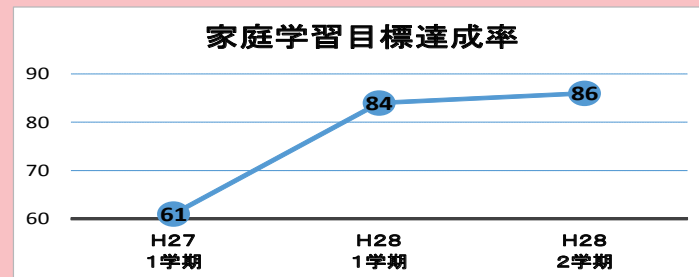
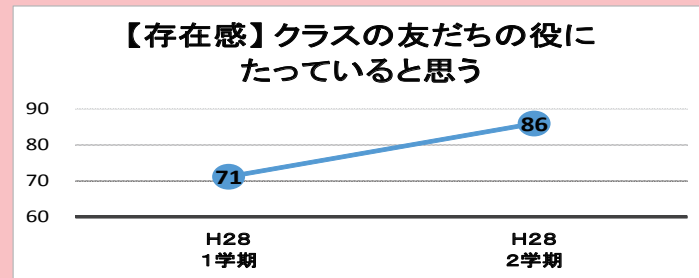
課題

- ・学校、家庭、地域が連携した、登校指導やあいさつ運動を今後も継続して実施していく必要がある。

研究の成果と課題

成果

因子	質 問 項 目	H28 1学期	H28 2学期
存在感	クラスの友だちの役にたっていると思う	71	86
承認	クラスの友達から「ありがとう」といわれることがある	94	96
貢献	クラスの友達の手伝いをする事が出来る	91	94
関係性	クラスの友達といると安心する	92	94
自己有用感平均値		87	93



- ・他者との関わりを意識した、伝え合う活動、認め合う活動、高め合う活動を通じて、「自己有用感」を高めることができた。
 - ・授業に話し合い活動や学び合う場面を意図的に取り入れることで、自他を大切にする人権意識が高まり、まごころを伝え合える人間関係が形成された。
 - ・児童アンケート集計結果より、友だちに嫌なことをしたり言ったり、友だちから嫌なことをされたり言われたりする児童が全項目において減少した。児童に自他を大切にする人権意識が高まり、児童同士の関わりの中で実践行動につながった。
 - ・「ありがとう日記」「ありがとうの木」「思いやりの花いっぱい運動」など、自他の人権を大切にする教育環境の整備充実を通じ、自他のよさや違いに気づき、認め合える人間関係が形成された。
 - ・学校行事や児童会活動、地域との連携活動に人権教育の視点を位置付けることができた。
 - ・学校応援団や社会福祉協議会と連携し、地域の方と協働した縦割り班活動を通じ、友達や地域の方々と協力し、高め合う活動ができた。
 - ・児童会と連携した集会や掲示物作成などの啓発活動を通して、児童の実践意欲が高まった。
 - ・教師や友達から認められることで、自己肯定感が高まり、学習への意欲が向上した。
 - ・教師が児童の活動を見取り、具体的に褒めたり励ましたりすることで、一人一人の児童を大切にしたい授業づくりにつながった。
 - ・ユニバーサルデザインの視点を生かした教室環境づくりや授業実践を通して、教師の人権感覚に対する意識が高まった。
 - ・教師の人権宣言「チーム長一人権宣言」を活用した学級づくりを通じ、教師と児童の人権意識が高まった。
 - ・人権に関する意識調査を継続的に実施したことにより、研究の効果について客観的に検証することができた。
 - ・ホームページに「人権教育コーナー」を作成したことにより、家庭や地域に、より詳細な情報発信することができた。
- ## 課題
- ・人権教育を意識した授業（特に主体的・対話的で深い学び）を引き続き研究していくことが必要である。
 - ・人権教育の視点に立った取組を、さらに家庭や地域に広めていく必要がある。

